



（以下）「おおきいおおきいおおきい」などと歌はれていたが、それがいつの間にか多くの人に歌われるようになった。これは、海に囲まれた日本が、世界で最も豊かな資源をもつていて、それが豊かな文化や経済をもたらすからだ。

しかし、この豊かな資源を守るために、多くの人が努力している。例えば、漁業者たちは、資源を守るために、漁獲量を制限したり、漁具の規制を設けたりしている。また、政府は、環境保護法を制定して、海洋汚染を防ぐための規制を設けている。

一方、消費者として、私たち自身も、資源を守るために、節約意識を持ち、資源を大切に使うことが求められる。資源を守ることで、私たちの生活が豊かになるだけでなく、世界全体が豊かになることもできる。

以上のように、資源を守ることで、私たちの生活が豊かになるだけでなく、世界全体が豊かになることもできる。

## 海を学ぶ教材のあり方の展望

### II 知識力や思考力・判断力・表現力を育てる教材とは

「社会的視点・考え方を育む」、「問題解決の取組み」、「知識・思考力の育成」、「表現力の開拓」など、これらの要素が、海を学ぶ教材において重要な位置を占めています。しかし、これらは、単なる知識の伝授ではなく、実践的な問題解決のプロセスを通じて、知識を活用する能力や、問題解決のための思考力や判断力を養成する目的があります。

また、教材には、地理的・歴史的・科学的・技術的な知識が組み込まれています。これらは、海の構造や機能、資源の利用方法、環境問題などを理解するための基礎知識です。

さらに、教材は、実験や観察、調査などの実践的な活動を通じて、知識を学ぶことを促します。これにより、知識を活用するための思考力や判断力を養成する目的があります。

以上のように、海を学ぶ教材は、知識を学ぶだけでなく、問題解決のための思考力や判断力を養成する目的があります。

これは、海事の「海運」、農業の「農業」、工業の「工業」、商業の「商業」など、多岐にわたる分野の知識を学ぶことで、総合的な知識を身につけることを目指すものです。

理科教や生物科教である。

一方、思惟力・判断力が海の多面性・多角性を理解するのに役立つため、多くの知識を身につけていくことが求められます。

そのため、教材では、地理学や生物学、物理学などの知識を組み合わせて、総合的な知識を身につけていくことが求められます。

また、知識を身につけていくことで、問題解決のための思考力や判断力を養成する目的があります。

以上のように、海を学ぶ教材は、知識を身につけていくことで、問題解決のための思考力や判断力を養成する目的があります。

したがって、